



1. AASM判定マニュアル VERSION 3 日本語版の 導入にあたり

中山 秀章

要旨

2025年7月に『AASMによる睡眠および随伴イベントの判定マニュアル. ルール, 用語, 技術仕様の詳細 VERSION 3』(以下, AASM判定マニュアル第3版)¹⁾の日本語版が出版された. 英語オリジナル版より約2年遅れではあるが, 最新の睡眠検査法および解析の国際標準が日本睡眠学会より上梓された. 日本睡眠学会では, 出版にあたり学術集会で, そのポイントと理解を深めてもらうため, シンポジウムを開催した. 最新のスコアリングを導入するにあたり, 意義および, そのプロセス, 注意点をまとめた.

● **Keyword** 判定マニュアル, 日本語版, 導入プロセス, 精度, 標準化

はじめに

本特集は, 日本睡眠学会第49回定期学術集会(広島)のシンポジウム14「AASMスコアリングマニュアル日本語版: 第3版のポイントと理解を深める」において, 4名のシンポジストから報告していただいた内容をそれぞれの立場からまとめていただいた. 『AASMによる睡眠および随伴イベントの判定マニュアル. ルール, 用語, 技術仕様の詳細 VERSION 3』(以下, AASM判定マニュアル第3版)の導入は, 長年使われてきた地図(旧マニュアル)を, 最新の衛星データと詳細な標識(新基準)が追加された高精度なデジタルマップに切り替えるようなものである. 地図自体は馴染みがあつて

も, 新しい標識や道の定義が変わっているため, 現場のドライバー(検査技師や医師)全員が新しいルールブックを読み込み, 新しい標識での運転練習(実症例トレーニング)をしなければ, 目的地(正確な診断)に一貫して到達することはできない. そのため, 次項以降の論説を読んでいただき, 理解を深めていただきたいと思う. それに先立ち, 本稿では, 導入する上での意義, プロセス, 注意点について述べる.

導入の背景と意義

AASM判定マニュアル第3版は, ルール, 用語, 技術仕様の詳細を定めたものであり, 米国では2023年2月に, 日本語版はその後に刊行された睡眠検査の臨床マニュアルである. マニユ

1) 東京医科大学睡眠学講座 (〒151-0053 東京都渋谷区代々木5-10-10 SYビル)

アルとは、所定の社会や組織における各個人の行動を明文化し、全体に一貫性のある行動をとらせることを目的としている。医療現場の検査において教育、普及・実践に加え、標準化が求められ、そのうえで評価、コスト意識・効率、研究を行い、よりよい医療に結びつけることが重要である。この新マニュアルの活用を推奨するのは、診断の標準化、診断精度の向上、および国際的な研究との整合性を確保するために不可欠である。マニュアルは、状況に則してどのように対応すべきかを説明した手引書としての役割を果たし、各施設および個人間での「正確性 (accuracy)」と、施設内や個人 (経時的) での「精密性 (再現性/precision)」を向上させ、曖昧な解釈を明確な解釈へと導くことをめざすものである。これにより、睡眠検査の質を高め、標準化された診断が可能となる。

また、『AASM判定マニュアル第3版』の導入は、同時に改訂された『睡眠障害国際分類第3版改訂版 (ICSD-3-TR)』²⁾との連携を強化する上でも重要である。ICSD-3-TRは、国際疾病分類 (ICD) の最新版であるICD-11との整合性を強化しており、特にICD-11では「睡眠・覚醒障害」が独立した章 (第7章) として扱われるようになったため、国際的な診断基準の足並みを揃えることが求められている。ICSD-3-TR日本語版も、本マニュアル日本語版とほぼ同時に睡眠学会より出版されているので、ぜひそちらも利用していただくことを期待する。

導入のプロセスと注意点

『AASM判定マニュアル第3版』を臨床現場に導入する際は、現場の混乱を最小限に抑え、診療の質を維持・向上させるための周知な準備と継続的な取り組みが必要である。以下に必要なプロセスと注意点について述べる。

1. 導入時の混乱を防ぐための準備

- ・マニュアルの変更点 (新旧) を正確に把握す

ること。日本語版は、AASM判定マニュアル第2.6版ではなく、第2.5版から第3版にアップしているため、注意が必要である。

- ・スタッフ間でマニュアルの読み合わせや勉強会を行い、認識を統一すること。

2. 教育と研修の必要性

- ・単なる座学ではなく、実症例を用いたトレーニングを実施することが重要である。実際のPSGデータを使用し、新旧の基準で判定を比較することで、変更点を深く理解できる。
- ・また、継続的な教育体制を構築することも重要である。

3. 既存データとの整合性

- ・新基準の導入により、治療効果や経過の評価がバージョン間の違いによって影響を受ける可能性があるため、解析するうえで、Notesを含む運用上の補足条項を必ず確認する。
- ・データベースを管理する際は、異なる基準で解析された結果が混在しないよう、必ず解析基準を明示する。

4. 施設ごとの対応方針

- ・各施設での状況も異なることより、一斉導入による混乱を避けるためにも、段階的な導入や試験的な運用期間を設けるなどが、推奨される。
- ・そのため、施設の規模や人員構成に応じて、導入時期や研修内容を調整する柔軟な運用設計を行うほうがよい。

まとめ

『AASM判定マニュアル第3版』の日本語版の導入は、日本の睡眠検査の診断精度と国際的な整合性を高めるうえで非常に重要である。日本睡眠学会は、強制ではないが、これらの新マニュアルを診断の基準として運用を推奨している。このことが、臨床現場での理解と活用が質の高い診療へ直結すると考えられている。導入

にあたっては、特にレム睡眠行動障害、呼吸イベント、心臓イベントに関する具体的な判定ルールの変更や、在宅睡眠時無呼吸検査における報告基準の変更点を正確に把握し、スタッフ間の教育・研修を通じて、現場の混乱を避けつつ段階的に進めることが成功の鍵となる。多くの施設での早期の導入および活用を期待するものである。

深謝：『AASM判定マニュアル第3版（日本語版）』の出版にあたり、翻訳責任者である私に協力していただき、翻訳作業を行っていただいた葛西隆敏氏、角谷寛氏、神林崇氏、黒崎幸

子氏、杉田淑子氏、鈴木圭輔氏、野田明子氏、山内基雄氏、山本勝徳氏に深く謝辞いたします。

なお、本論文に関連して開示すべきCOIはない。

文 献

- 1) 米国睡眠医学会著、日本睡眠学会監訳：AASMによる睡眠および随伴イベントの判定マニュアル。ルール、用語、技術仕様の詳細VERSION 3。ライフサイエンス出版、東京、2025
- 2) 米国睡眠医学会著、日本睡眠学会診断分類委員会監訳：睡眠障害国際分類第3版改訂版。ライフサイエンス出版、東京、2025